

1. 職名・氏名 准教授・徳野 淳子2. 学位 学位 博士、専門分野 情報科学、授与機関 北陸先端科学技術大学院大学、授与年月 2005年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
情報基礎演習（1単位） 1年生（2017年度以前～2019年度） 3クラス担当	
② 内容・ねらい（自由記述）	
タイピングやワープロ，メール，Web 検索，プレゼンテーション技法，ホームページの作成などを学習する．大学生活で必要なコンピュータの基本的知識と技能を習得させるのがねらいである．	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	
学生の入学時のコンピュータリテラシーを把握し，各自の能力に応じた授業が提供できるように，2017年度から3年間に渡り前期オリエンテーション期間中に「情報プレースメントテスト」を行ってきた．2019年度は特に過去3年間の実績をもとに評価と問題点の整理を行った．	
また，授業教材に関しては，過去の問題点を踏まえ，2018年度に Word に関する教材を一新した．その他，毎年年度初めに教材全体の見直しも行っている．	
学生自身が授業初めの自分の能力と課題を理解し，各回の学習に取り組めるように，プレースメントテストの問題を使って指導した．その他，授業で使用した教材や参考サイトを学習管理システム（F レックス LMS）に掲載して授業外の学習を支援した．	
① 担当科目名（単位数）	
主たる配当年次等	
導入ゼミ（1単位） 1年生（2016年度以前～2019年度：「インターネット社会の歩き方」）	
② 内容・ねらい（自由記述）	
「インターネット社会」という枠組みの中で，各自が興味のあるテーマを設定して考察する．その過程で，大学生に必要な文献調査やレポート作成，効果的なプレゼンテーションの方法を習得させることがねらいである．	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	
学生がこの分野に興味を持てるようにビデオなどの視覚教材を用いて説明するとともに，よく考えて調査テーマを決めることができるように，序盤に複数回グループディスカッションの機会を設けている．2019年度は特に，モラルジレンマ問題を用いたグループワークを取り入れた．インターネットを利用した文献調査やレポート作成，効果的なプレゼンテーション資料の作成方法に関しては，演習室のパソコンを使って実践的に学べるよう，適宜教室を変えながら指導した．また，個別に指導が必要な課題に関しては，各学生の提出物にコメントをつけて学習管理システム（F レックス LMS）を介してフィードバックしている．	
① 担当科目名（単位数）	
主たる配当年次等	
教養ゼミ（1単位） 1年生（2018年度～2019年度：「メディアリテラシー」）	
② 内容・ねらい（自由記述）	
テレビニュースや新聞，CM やソーシャルメディアなど，身近なメディアを論理的で偏りのない視点で見る．メディア分析やグループワークを通じて，各種メディアの特性を理解し，情報を読み解くための能力を身につける．	

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

このテーマは、非常勤講師として担当している授業と同じテーマであるが、一方は大講義であるのに対し、こちらはゼミの為、学生が自ら考える時間や、他のメンバーの意見を確認する時間をより多くとった。

毎回トレーニングシートに自分の考えを書いて提出してもらい、次回の授業でその振り返りをする事で、学生の理解が深まるようにした。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報科学 I（1 単位） 1 年生 （2017 年度以前～2019 年度）

② 内容・ねらい（自由記述）

情報社会を生きる上で必要な情報リテラシーを習得させることがねらいである。内容は大きく以下の3つに分けられる。

- (1) 情報倫理と情報セキュリティに関する基礎知識（ネットワークリテラシー）
- (2) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー）
- (3) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの機能を理解し活用する能力（コンピュタリテラシー）

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

大人数の講義であるため、個々の学生の理解度を把握し、質問し易くするために、毎回授業の最後に大福帳を配布し、各回の学習内容に関するお題を出して回答させた。また、質問や理解不足な点があった場合は、次回の授業までにコメントを返すようにした。学習管理システム（F レックス LMS）には講義スライドや関連する情報を参考サイトとして掲載するとともに、単元毎の確認テスト（オンラインテスト）を設け、授業外学習を支援した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報処理基礎演習（1 単位） 1～4 年生 （2017 年度以前～2019 年度）

※ 旧カリキュラム名称：情報処理 A

※ 主として、生物資源学部の 2 年生を対象に実施。第 1～12 回を担当

※ 2017 年度は、上記クラスの外、海洋生物資源学部の学生を対象に小浜キャンパスでも開講。全ての回を担当

② 内容・ねらい（自由記述）

情報処理の基本ツールである表計算について、Microsoft 社の Excel を用いて、基本操作から中級レベルの操作を習得させるのがねらいである。主に、表計算の仕組みと理解、表とグラフの作成、式入力・集計処理、関数利用、基本統計量の算出、データベースの操作について学習する。生物資源学部の学生を対象にした授業では、この他、必要な実験データ処理技術を習得させるため、第 13～16 回の後半は、生物資源学部の先生方に授業を行っていただいている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

同授業を担当する教員らで制作した教科書を用いて授業を行っている。学生によって事前の能力に差があるため、この授業で初めて Excel を操作する学生にあわせた進度で解説し、余裕のある学生に対しては自分で教科書を見ながら練習問題に取り組むよう指導した。また、現実の問題処理にあたり、どのスキルを使うかを素早く判断し、一定時間内で問題処理できる能力を養成するために、定期的に課題や試験を実施した。授業の内容や実施方法については、教員間で適宜確認を取るようにした。過去の授業評価アンケートで、「テストや課題の減点箇所を知りたい」という意見があった為、2018 年度以降は F レックス LMS を介して、評価基準や減点箇所をより明確に学生にフィードバックしている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報処理 F（2 単位） 1～4 年生 （2016 年度以前～2017 年度）

② 内容・ねらい（自由記述）

映像制作の基本的な流れについて、企画・撮影・編集の作業を演習形式で学習する。受講者数にもよるが、基本的に企画・撮影はグループワークとして実施し、編集には代表的な動画編集ソフトである **Adobe Premiere Elements** を利用した。メディア理解・表現能力、著作物の利用や公開などメディアリテラシーに関する能力を養うことがねらいである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

学生が目標をもって取り組めるように、課題を段階的にこなしていくことで最終的に一つの映像が完成するように授業を設計した。制作する映像は、「福井県の紹介 CM」という枠組みの中で、個人またはグループで興味のあるテーマを一つ設定し、授業への興味関心が高まるように工夫した。また、自分の考えを映像で効果的に表現する方法を学ぶために、授業前半に CM 分析などのグループワークも取り入れている。学生が映像編集ソフトの操作方法を理解し易くするために、サンプル映像などの教材を作成している。毎年、教材の修正や操作方法の説明資料を作成するなど、学生が作業しやすい環境を整えている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
メディア情報処理概論（2 単位） 1～3 年生（2017 年度以前～2019 年度）

② 内容・ねらい（自由記述）

私たちがコミュニケーションで用いる言語や文字、画像や音声をコンピュータで表現、処理するためのメディア情報処理技術について学習する。自然言語処理や文字認識、画像・音声処理技術の基礎を理解し、その応用技術やツールなど身近な技術への関心を高めてもらうことがねらいである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

概論ということで様々なメディアを対象とした情報処理技術について広く浅く扱うことを考慮して、本講義では特定の教科書は使用せず、資料を作成し、適宜、参考書を紹介した。講義には、PowerPoint 資料を用い、これに対応した配布資料（空欄記入形式）を用いて、学生が終始講義に集中できるように工夫した。学生がこの分野に関心が持てるように、かな漢字変換や Web 検索、テキストマイニングなどの身近な技術を取り上げながら進めた。また、紹介した基礎技術が単に文章による記述や数式処理だけで終わらないように、適宜、視覚教材を取り入れながら、その技術がどのような場面で利用されているか学生に具体的なイメージを持ってもらえるよう工夫した。2017～2019 年度は、情報演習室で LMS やパソコンを使用して授業を行い、各箇所での問いかけに対する学生の回答を確認しながら、授業を進めている。また、単元毎に授業内外で課題レポートを出題し、その都度理解度を確認した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
現代人権論（2 単位） 1～3 年生（2017 年度以前～2019 年度）（全 15 回のうち 1 回を担当）

② 内容・ねらい（自由記述）

本講義は、複数の教員が担当するオムニバス形式であり、現代社会における種々の人権問題を多様な視点から学習する。このうち担当した回では「インターネットと人権」というテーマで講義した。その中で、誤った情報の解釈が招く問題を取り上げ、メディアリテラシーの必要性について説明した。また、インターネット・リテラシーとして、個人情報漏洩、プライバシー権や肖像権等の侵害、誹謗中傷などの問題を中心に、他人の権利を侵害しないための情報倫理と被害にあった場合の対応について解説した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

学生のソーシャルメディア利用に関する注意は、2013 年度から、オリエンテーションやポスター等で全学的に指導している内容である。これらの指導および、必修の情報科学 I で学習する内容と関連付けながら、さらに発展して学べるように工夫した。また、他の講義と同様に、PowerPoint 資料を用いたが、別途これに対応した配布資料（空欄記入形式）や問いかけを入れながら、学生が講義に集中できるよう工夫した。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 教養特講 I (研究の世界) (2 単位) 1~3 年生 (2017 年度~2019 年度) (全 15 回のうち 1 回を担当)</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 本講義は、複数の教員が担当するオムニバス形式であり、それぞれの専門分野の魅力を分かりやすく紹介する。様々な分野の研究の世界に触れることで、学生の視野を広げることがねらいである。このうち担当した回では「教学 IR—学生の学びの実態調査と分析—」というテーマで、現在多くの大学で導入されている教学 IR の目的や概要、本学でも実施している F レックス学生意識調査の結果について紹介した。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 「大学生の学び」をテーマにすることで、関心を持ってもらえるよう工夫した。また、学生が授業に集中できるように、各箇所で見かけを用意し、インタラクティブに授業を進めた。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 開講学校名 地域コア I 「メディアリテラシー」(2 単位) 福井大学 (2017 年度以前~2019 年度) ※2015 年度以前の名称：教養特別講義 I 「メディアリテラシー」</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) メディアリテラシーの基本的な考えやメディアとしてのインターネットの特性を学習し、情報を主体的に吟味し、批判的に読み解くための能力を身につける。また、インターネット上で情報を発信する際の基本的なルールとマナーを理解する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 広告や CM, ニュース番組や新聞, 電子メールやソーシャルメディアなど、身近なメディアの問題を取り上げながら、学生が興味を持てるよう工夫した。講義は、PowerPoint 資料およびそれに対応した配布資料を用いたが、より学生の理解が深まるよう、動画教材なども取り入れて解説した。</p>
<p>④ 本学における業務との関連性 (自由記述) 本学で担当している「情報科学 I」をはじめとする情報教育にも強く関連する科目であり、本講義を行うことで、他の授業の改善にもつながっている。また、2018 年度から、本学で本講義の内容に関連した教養ゼミを新たに開講した。</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<p>内容</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)
②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) <ul style="list-style-type: none">• <u>徳野淳子</u>,「学生の意見から探るリサーチ・クエスチョン(RQ)ー福井県大学間連携事業(Fレックス)における教学 IR からー」,第6回大学情報・機関調査研究集会(MJIR), pp.118-123, Aug.2017.• <u>徳野淳子</u>,「大学生が求める学びの改善や成長につながる情報 Fレックス学生意識調査の RQ(リサーチ・クエスチョン)を探る」日本教育工学会(JSET)第33回全国大会, pp. 601-602, Sep.2017.
④その他の公表実績 <ul style="list-style-type: none">• <u>徳野淳子</u>,「Fレックス学生意識調査2016の分析結果」,Fレックス第37回研究会,2017年7月4日,福井工業大学,口頭発表• <u>徳野淳子</u>,「Fレックス学生意識調査の報告ー2016年度の分析結果を中心にー」,Fレックス第8回FD合宿研修会,2017年9月7日,福井工業高等専門学校,口頭発表.• <u>徳野淳子</u>,「Fレックス学生意識調査2017の分析結果」,Fレックス第38回研究会,2018年7月3日,福井工業大学,口頭発表• <u>徳野淳子</u>,「Fレックスにおける教学 IR の取り組み」,「福井県立大学における教学 IR の取り組み」,Fレックス第10回FD合宿研修会,2019年9月10日,福井県立大学,口頭発表• <u>徳野淳子</u>,「GEBOK2017に基づく授業設計と教科書」,AXIES 大学 ICT 推進協議会 2019年度年次大会シンポジウム,2019年12月14日,福岡国際会議場,口頭発表• 「これからの一般情報教育 why, what, how」パネリスト,情報処理学会第82回全国大会,2020年3月5日(予定),金沢工業大学
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))
学会での役職など(学会名) <ul style="list-style-type: none">• 日本教育工学会 SIG-11 情報教育コアメンバー(2016年度~2017年10月)• 情報処理学会「一般情報教育委員会」委員(2017年4月~現在)
学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加(参加研究会名、調査活動名(期間))
②その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績
<ul style="list-style-type: none"> 【科研費】2016～2019年（研究分担者）：基盤研究（B）（一般）「ビッグデータ時代における異なる学習履歴データを共通の視点で分析する方法論の構築」，課題番号（16H03083）
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
<ul style="list-style-type: none"> 福井県大学連携プロジェクト（Fレックス）基盤システムの管理・運用，業者，本学ネットワーク管理室との調整）（2017年度以前～現在） 福井県大学連携プロジェクト（Fレックス）ICT-WG サブリーダー（2017年4月～現在） 福井県大学連携プロジェクト（Fレックス）IR-WG リーダー（2017年4月～現在）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時）
② 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）
③ その他（名称、活動場所、活動期間）
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度 第2回仁愛大学FD/SN研修会講師「Fレックス「学生意識調査」の目的および分析結果の活用について」，仁愛大学，2020年1月21日予定 全国自治体病院協議会福井県支部 第2回研修会講師，「医療現場に潜むSNSのリスクとその対応」，福井県立病院，2020年1月22日予定
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2) 委員会・チーム活動 (名称、期間) <ul style="list-style-type: none">• 教育研究委員会委員 (2017 年度)• FPUnet 運用管理連絡会議委員 (2017 年度以前～現在)• ハラスメント相談員 (2017 年度以前～現在)• 学術教養センター内カリキュラム委員会委員 (2017 年度以前～現在) (※2016, 2017 年度は教育企画推進委員, 教育研究委員として委員会に参加)• 福井県立大学 教学 IR-WG 部会委員 (2019 年度)
(3) 学内行事への参加 (行事名、参加日時) <ul style="list-style-type: none">• ハラスメント防止研修会「上手な相談の仕方とは」(2017 年 7 月 27 日) に参加• 全学ミーティング (平成 29 年度第 1～3 回, 平成 30 年度第 1～5 回, 平成 31 年度第 1～4 回) に参加, このうち, 平成 29 年度第 3 回では「教学 IR と F レックス学生意識調査」について, 平成 30 年度第 2 回では, 「教職員の情報セキュリティの確保」について報告• ハラスメント防止研修会「Sexual Consent Workshop 性暴力のない社会にむけて」(2018 年 7 月 12 日) に参加• 海洋生物資源学部の先生方を対象にした F レックス LMS 講習会に講師として参加 (2018 年 9 月 11 日)• 教育研究フォーラム「英語プレースメントの分析と授業の現場から」(2018 年 12 月 12 日) に参加
(4) その他、自発的活動など (活動名、活動内容、活動期間) <ul style="list-style-type: none">• F レックス LMS, SNS の学内ユーザの管理, サポート (2017 年度以前～現在)• 第 8 回 F レックス FD 合宿研修会への参加 (2017 年 9 月 6, 7 日, 福井工業高等専門学校)• 第 9 回 F レックス FD 合宿研修会への参加 (2018 年 9 月 12 日, 仁愛大学)• 第 10 回 F レックス FD 合宿研修会への参加 (2019 年 9 月 9, 10 日, 福井県立大学)